

⑤ 福島県岩瀬郡鏡石町・・かがみいしまち



遠藤 栄作 町長



- ①復興シンボルモニュメントと牧場のあーさー♪
- ②岩瀬牧場とサクラ
- ③あやめウオーク

かわる、かがやく 『牧場の朝』のまち かがみいし

鏡石町は、福島県「中通り」の中央南部に位置するコンパクトなまちです。唱歌『牧場(まきば)の朝』のモデルとして知られる本町は、年間の平均気温がおおよそ18度と内陸性の温暖な気候に恵まれ、その穏やかな気候風土と豊かな水資源、肥沃で平坦な耕地が広がる地の利を活かし、水稲や野菜、果樹、畜産が盛んです。町内には、日本の近代酪農発祥の地とされる『岩瀬牧場』をはじめ、豊かな自然環境を活かしたスポーツ施設やレクリエーション施設が点在し、さわやかな田園都市を形成しています。震災を契機として、町民相互の『絆』の大切さを『やさしさといふれあい』と一歩先を目指す『復興と進化』を基本理念にまちづくりを進めています。

アヤメを活かしたまちづくり

町の中心的な公園である鳥見山公園には、アヤメが町の花に制定される以前から群生していました。その景観を活かしながら、公園内にあやめ園を整備し、毎年6月中旬からの見頃には、多くの人々が色とりどりのアヤメの観賞に訪れています。今年で12回目の『あやめ祭り』に併せ、公園から田んぼアート、岩瀬牧場への周遊を楽しめて、町の魅力が満喫できる『あやめウオーク』を行っています。町の地域活性化を担っている、町の花アヤメを通じたボランティア団体『あやめ株式会社』は、平成4年の設立から長年にわたって花と緑あふれるまちづくりを実践し、地域コミュニティの再生・互いに支え合う良好な地域社会の形成に、大きく貢献しています。

③ 宮城県多賀城市・・たがじょうし



菊地 健次郎 市長



- ①多賀城跡
- ②あやめ園
- ③多賀城市観光協会キャラクターたがもん

国府・鎮守府として東北支配の要に

多賀城市は宮城県の中央東部、仙台市に隣接しています。人口は、平成27年4月末現在6万2803人で震災後に最大16000人が減少しましたが、現在は震災前と同じ程度まで回復しています。面積は19・65平方キロメートルで、東北地方でも人口密度が高い地域です。多賀城市は約1300年前の奈良時代初期から約300年間、陸奥の国府が置かれ、東北地方の政治・文化の中心として栄えたところです。多賀城市には歴史・文化的資源が点在しており、歴史の都『史都』としてまちづくりを進めています。一方で、国際貿易港である仙台港の背後に位置し、工場地帯を形成してきた工業のまちでもあります。

多賀城跡の一面に咲く 300万本のあやめ

アヤメ類は、古代から多賀城市に自生する多年草で、古くは『多賀城古種』があったと言伝えられています。昭和60年、史跡の有効活用と『花と緑のまちづくり』の一環として、特別史跡多賀城跡の一角でアヤメの植栽を始めました。市のあやめ園には、平成13年に開催した『あやめサミット』で、加盟自治体から頂いたアヤメの株も元気に育っており、また、『あやめサミット』を記念して『絆』という種類の江戸系アヤメも植えられています。現在、500種300万本のアヤメや花菖蒲が、市民や観光客の目を楽しませています。繁殖力も旺盛で艶やかな花を咲かせるアヤメは、市の発展にもふさわしく、市制施行15周年を記念し、昭和61年にアヤメ科アヤメ属のアヤメ・カキツバタ・ハナシロウブを総称して市花を『アヤメ』と制定し、地域の活性化に役立てています。

⑥ 茨城県潮来市・・いたこし



原 浩道 市長



- ①水郷潮来あやめ園
- ②嫁入り舟
- ③潮来祇園祭禮

水の流れとともに栄えた水郷潮来 水と緑に恵まれたまち

潮来市は、茨城県南東部に位置し、北は行方市、南は神栖市、東は鹿嶋市、西は千葉県香取市に接する千葉と茨城の県境のまちです。太古は大部分が海であったため、低地で平坦な土地が続く水田地帯で、市の三方は東を北浦、南を外浪逆浦、西に霞ヶ浦と海の名残である湖に囲まれた水辺の街です。気候は四季を通じて穏やかで、雪もほとんど降らず積もることは稀です。潮来と書いて『いたこ』、難読地名として取り上げられますが、元々は『板久』と書かれ、1699年に水戸光圀が鹿島の神社『潮宮』にあやかり改名し、潮来になったと伝わります。江戸時代は、東北から江戸へ米などの運搬を行う際の水運の中継地として栄え、市内を流れる前川沿いには、今でも仙台河岸や津軽屋敷などの地名が残っています。

水郷潮来に初夏の訪れを告げる 『水郷潮来あやめまつり』

毎年多くの人が訪れ、まちが一年で一番活気づく『水郷潮来あやめまつり』は昭和27年に始まり、今年で64回を数える伝統のおまつりです。昭和40年頃まで、潮来の水田地帯では大小の水路が縦横にめぐり『笹葉舟』と呼ばれる小舟が重要な交通手段でした。日々の生活にも舟が使われ、嫁ぎ先に向かう花嫁も舟に乗り送り出されます。その光景が『潮来花嫁さん』という歌になり、全国に知られることになりました。今では水路も埋め立てられ、嫁入り舟を見ることはなくなりましたが、あやめまつりで再現したところ、年々参加希望者が増え、最も人気のある催し物となり、今年も37組の本物の花嫁が大勢に祝福されながら嫁いでいきます。

④ 福島県大沼郡会津美里町・・あいづみさとまち



渡部 英敏 町長



- ①あやめ苑
- ②高田錦
- ③会津本郷焼

豊かな水が育む緑豊かな農業地帯

会津美里町は、福島県の西部、会津盆地内に位置し、NHK大河ドラマ『八重の桜』の舞台となった会津若松市の西に隣接する人口約2万2000人の緑豊かな町です。山間部と肥沃な土壌の扇状地からなり、その中を綺麗な阿賀川(大川)や宮川、藤川などの一級河川が流れています。産業の主体は農業で、豊富な水資源を利用した稲作を中心に、野菜、果樹なども取り入れた複合経営が行われています。古来より窯業が発展し、平成7年に伝統工芸品産地の指定を受けた『会津本郷焼』は、東北最古の焼き物として知られています。現在15の窯元があり、焼物体験も人気です。また、高田梅漬物や新鶴地域で栽培されたブドウを使ったワインもあります。

アヤメを活かした観光

『アヤメ』は町の花として、町民にも親しまれています。伊佐須美神社外苑『あやめ苑』では、毎年6月15日から7月5日までの期間に、今年で35回を数える『あやめ祭り』が開催されます。苑内は多くの種類のアヤメが咲き誇り、期間中の土日は、あやめ流し踊りやよさこいのステージ、野点茶芸、琴の演奏などのイベントや、特産の高田梅の種を使った『種とばし世界大会』も開催され、多くの人出で賑わっています。東日本大震災後に一時観光客数は落ち込みましたが、現在は震災前の状況に戻りつつあります。今後も、アヤメと天海大僧正を活かし、伊佐須美神社を核とした観光を推進していきます。